

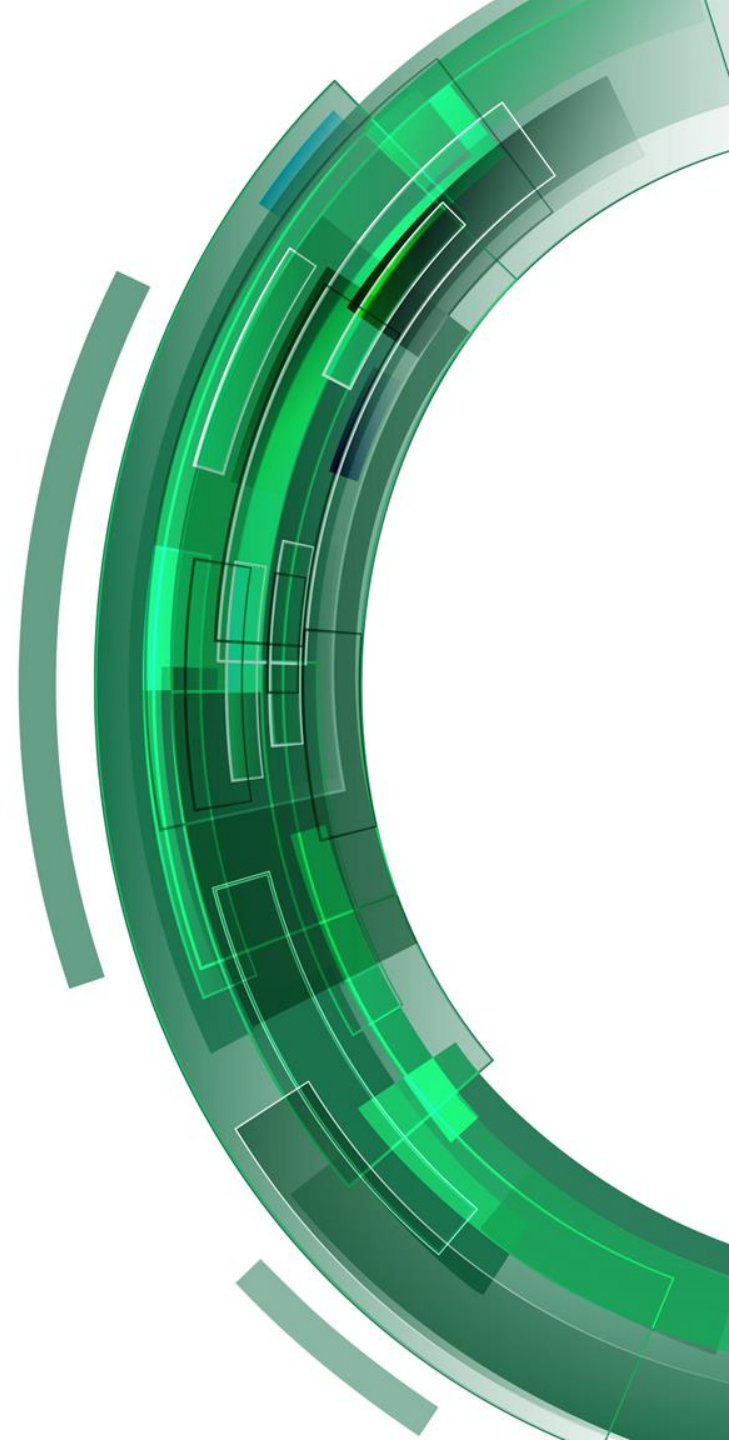
2023年3月期 決算説明会

2023年 5月1日（月）



あつい心で未来を創ります

中部鋼板株式会社



2023年3月期 通期決算実績	2
2024年3月期 通期業績見通し	9
資本コストや株価を意識した経営	20

【本資料お取扱上のご注意】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また本資料に含まれる将来の計画値、予測値等は説明会時点の入手できる情報に基づいて判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。また本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

2023年3月期 通期決算実績

売上高

763 億円（前期比 119億円増）

増収要因

販売価格の引き上げが浸透。

経常利益

123 億円（前期比 68億円増）

増益要因

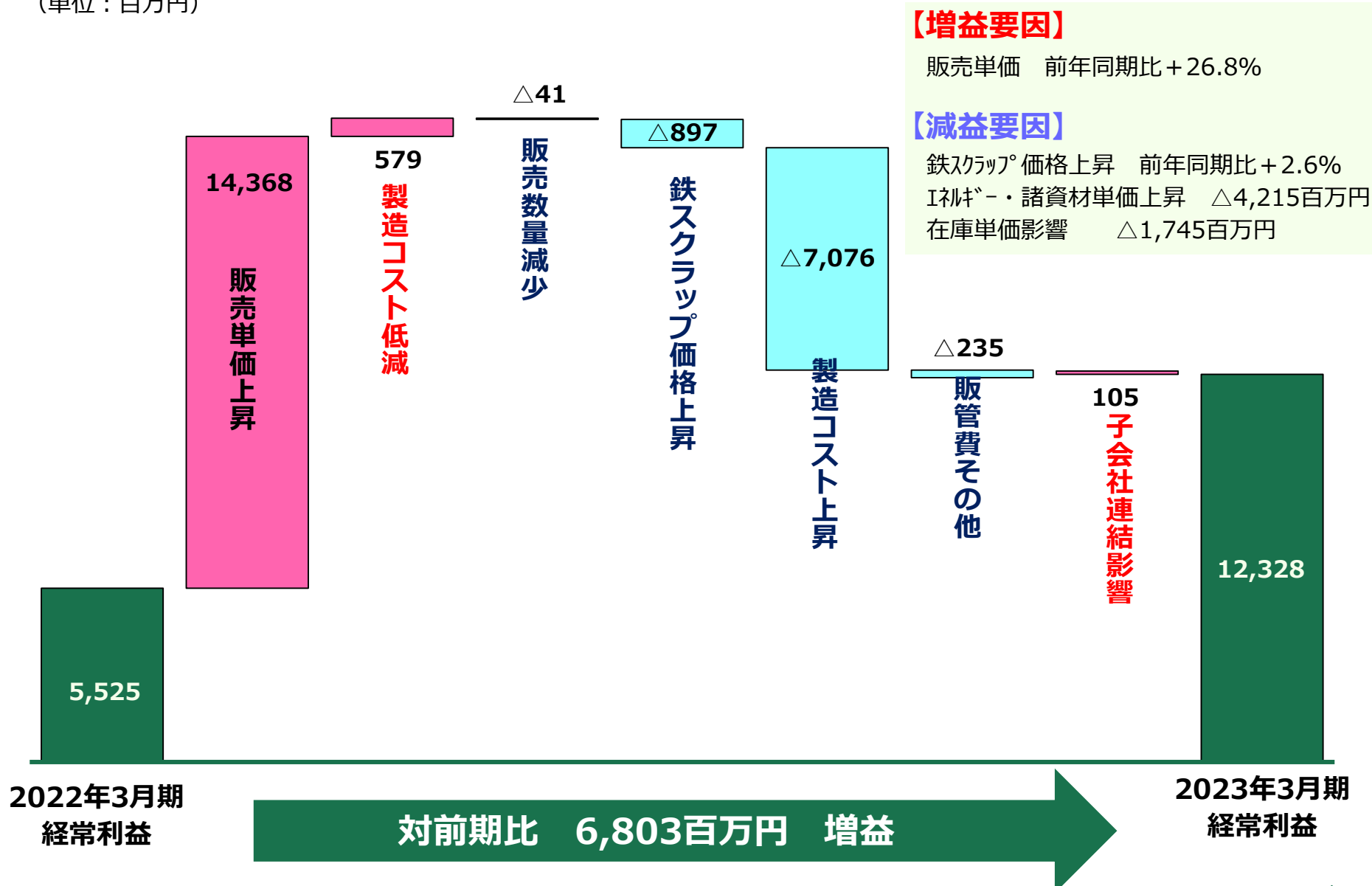
副資材やエネルギー価格等の上昇はあったものの、販売単価が大きく上昇し経常増益を確保。

通期業績（連結）

	2022年 3月期	2023年3月期			対前期	
		上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	64,399	39,297	37,022	76,320	11,921	18.5%
営業利益	5,554	5,578	6,682	12,261	6,707	120.8%
経常利益	5,525	5,630	6,698	12,328	6,803	123.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,785	3,881	4,695	8,577	4,791	126.6%
1株当たり 当期純利益 (円)	137.11	140.54	169.99	310.53	173.42	126.5%
販売数量 (万ト)	61	30	28	58	—	—

經常利益対前年度比増減分析（連結）

(単位：百万円)



セグメント別実績

(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		増減	
	外部顧客に対する 売上高	営業利益	外部顧客に対する 売上高	営業利益	外部顧客に対する 売上高	営業利益
鉄鋼関連事業	61,706	5,138	73,385	11,800	+11,679	+6,661
その他	2,692	415	2,934	460	+242	+45
連結合計	64,399	5,554	76,320	12,261	+11,921	+6,707

財務状況（連結）

（単位：百万円）

		2022/3末	2023/3末	増減
資産の部	現預金	8,311	10,906	+2,594
	売上債権	22,318	21,562	△756
	有価証券	12,300	14,597	+2,297
	棚卸資産	9,535	13,305	+3,769
	有形固定資産	17,803	19,028	+1,224
	その他	7,476	8,695	+1,218
	資産合計	77,746	88,095	+10,348
負債の部	仕入債務	7,004	7,340	+335
	固定負債	1,069	1,047	△21
	その他	3,614	5,987	+2,372
	負債合計	11,688	14,375	+2,687
純資産の部	株主資本	64,537	71,753	+7,216
	その他	1,521	1,966	+445
	純資産合計	66,058	73,720	+7,661
負債純資産合計	77,746	88,095	+10,348	

キャッシュフロー（連結）

（単位：百万円）

	2022年3月期	2023年3月期	増減
税金等調整前当期純利益	5,566	12,328	+6,762
減価償却費	2,427	2,336	△90
売上債権の増減（△は増加）	△9,923	756	+10,679
棚卸資産の増減（△は増加）	△2,058	△ 3,769	△1,710
仕入債務の増減（△は減少）	2,667	335	△2,331
その他	133	△ 1,853	△1,987
①営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,188	10,133	+11,321
②投資活動によるキャッシュ・フロー	3,350	△ 9,084	△ 12,434
配当金の支払額	△607	△ 1,407	△800
その他	△2	△ 546	△543
③財務活動によるキャッシュ・フロー	△609	△ 1,953	△ 1,344
現金及び現金同等物の期末残高	13,311	12,406	△905

2024年3月期 通期業績見通し

24年3月期業績(連結)見通しの概要

売上高

706 億円 (前期比 57億円減)

減収要因

工事による長期休止対応により販売数量が減少し、前期を下回る見通し。

経常利益

96 億円 (前期比 27億円減)

減益要因



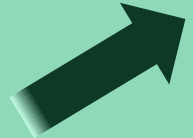

スクラップ・副資材単価が下落するも、エネルギー価格の上昇により、前期比で減益となる見通し。

'24年3月期 連結業績見通し

(単位：百万円)

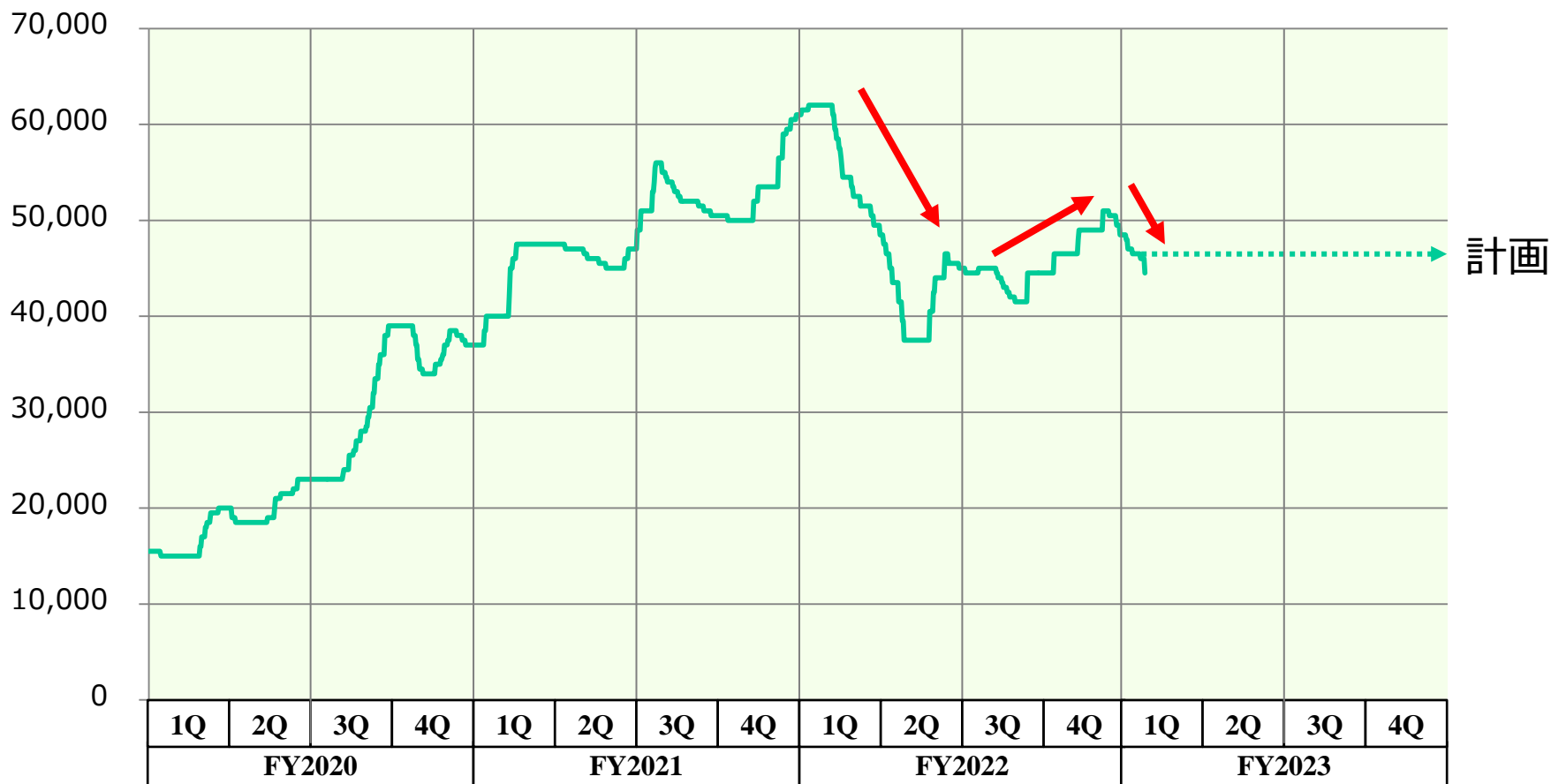
	2023年3月期	2024年3月期	対前期	
		見通し	増減額	増減率
売上高	76,320	70,600	△5,720	△7.5%
営業利益	12,261	10,100	△2,161	△17.6%
経常利益	12,328	9,600	△2,728	△22.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,577	6,500	△2,077	△24.2%
1株当たり 当期純利益 (円)	310.55	235.11	△74.44	△24.3%
年間配当金(円)	* 104	83	—	—
販売数量(万ト)	58	55	—	—

* 東証上場記念配当10円含む

	前期比 方向感	
スクラップ		前期よりスクラップ価格が値下がりする見通し
副資材		前期はウクライナ情勢でのパニック買いで高騰するも、現在は落ち着いてきており、合金鉄等の副資材は値下がりする見通し。
電力		原油価格高騰の影響を受け、引き続き上昇する見通し。
LNG		ウクライナ情勢の影響もあり、今期についても前期を上回る見通し。

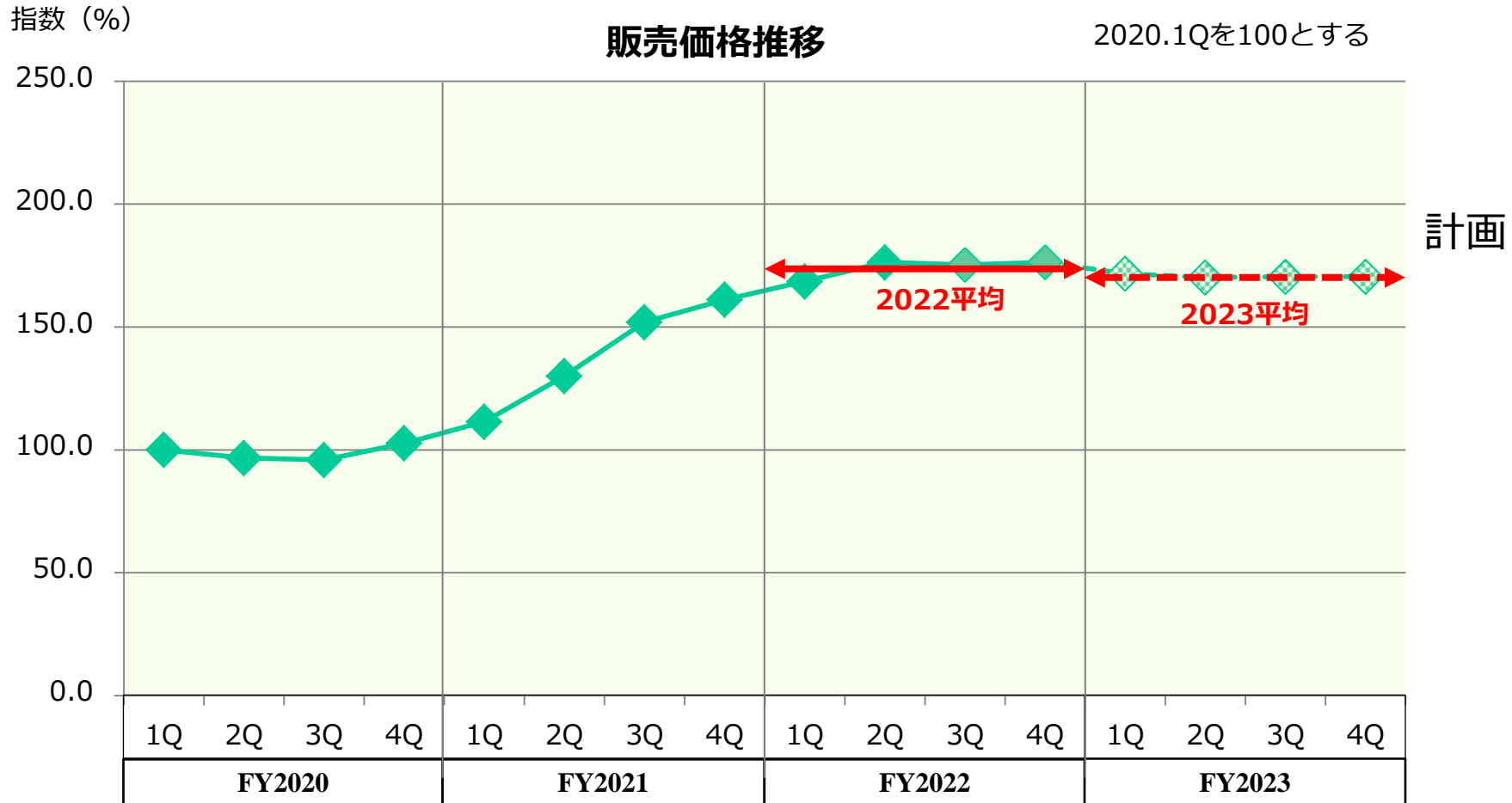
H 2 建値推移

単位：円/t



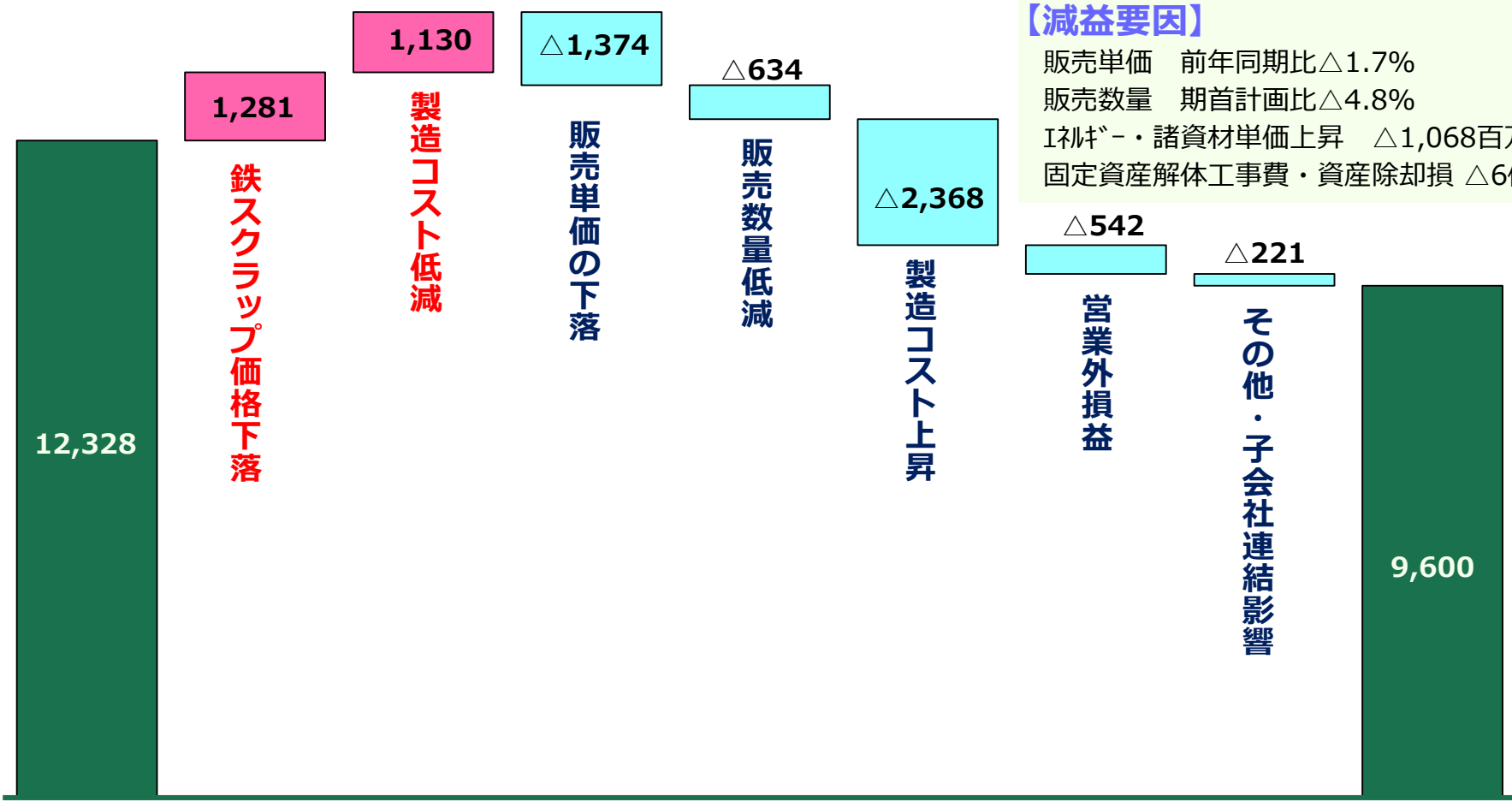
* 弊社購入H 2 建値

販売価格の動向



対前期比2024年3月期経営計画増減分析(連結)

(単位：百万円)



【増益要因】
鉄スクラップ 価格下落 期首計画比△3.8%

【減益要因】
販売単価 前年同期比△1.7%
販売数量 期首計画比△4.8%
I補修・諸資材単価上昇 △1,068百万円
固定資産解体工事費・資産除却損 △6億円

2023年3月期
経常利益

対前期比 2,728百万円 減益

2024年3月期
経常利益

鉄鋼関連事業

主要製品である厚板は、販売数量の減少により減収
数量減に加え、エネルギー価格の高騰により減益

営業利益



レンタル事業

新型コロナの影響が薄れ、外食産業に客足が戻り増収
アフターコロナによるイベント開催を前提に営業活動を展開し増益



物流事業

倉庫事業は車載用LIBの規制緩和が決定し減収
電力単価の上昇及び低温室の改修工事もあり減益



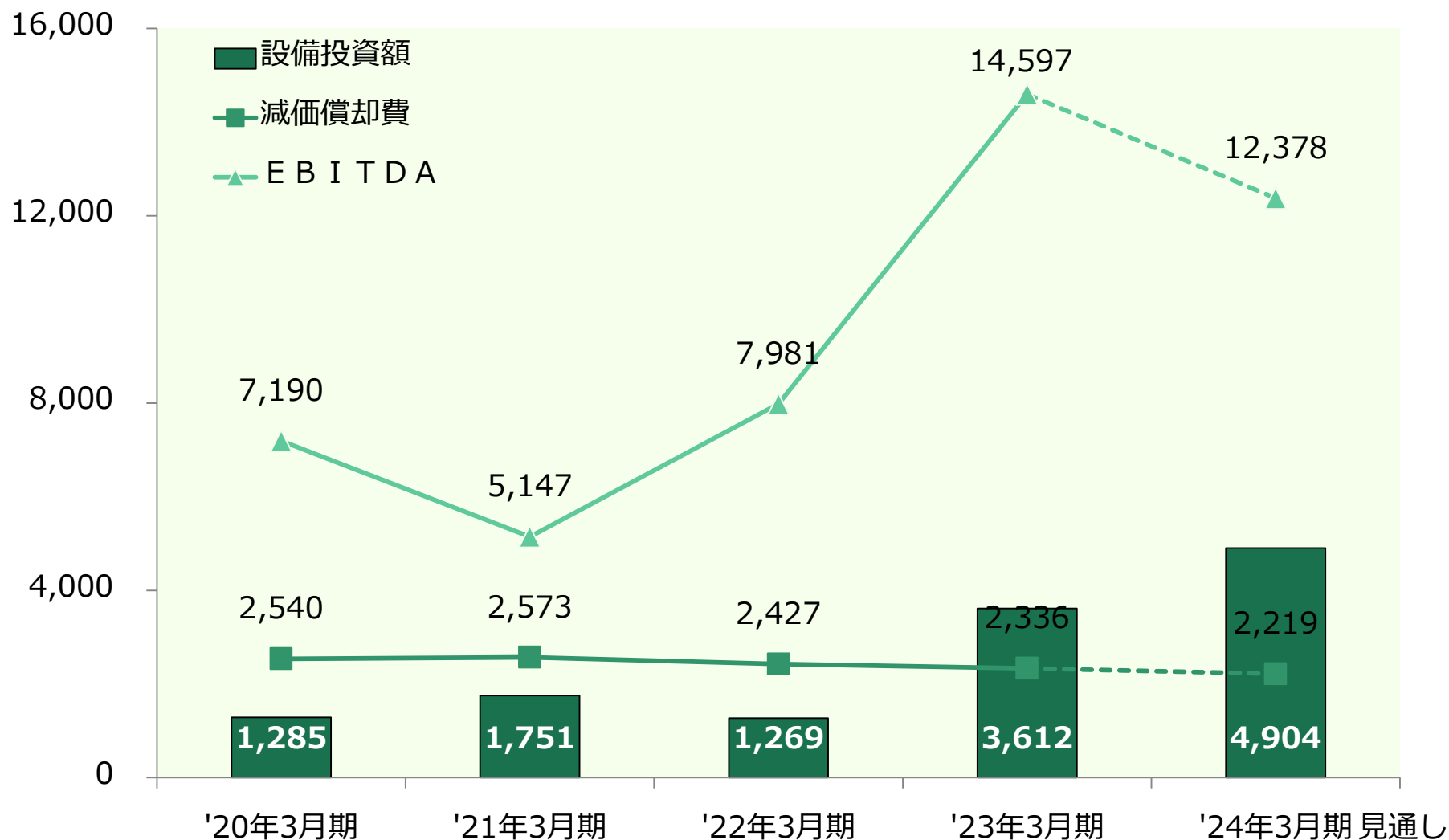
エンジニアリング事業

顧客状況として設備投資縮小及び大型案件が見込めず減収
小型案件を多数受注計画とするも減益



設備投資・減価償却費見通し（連結）

(単位：百万円)



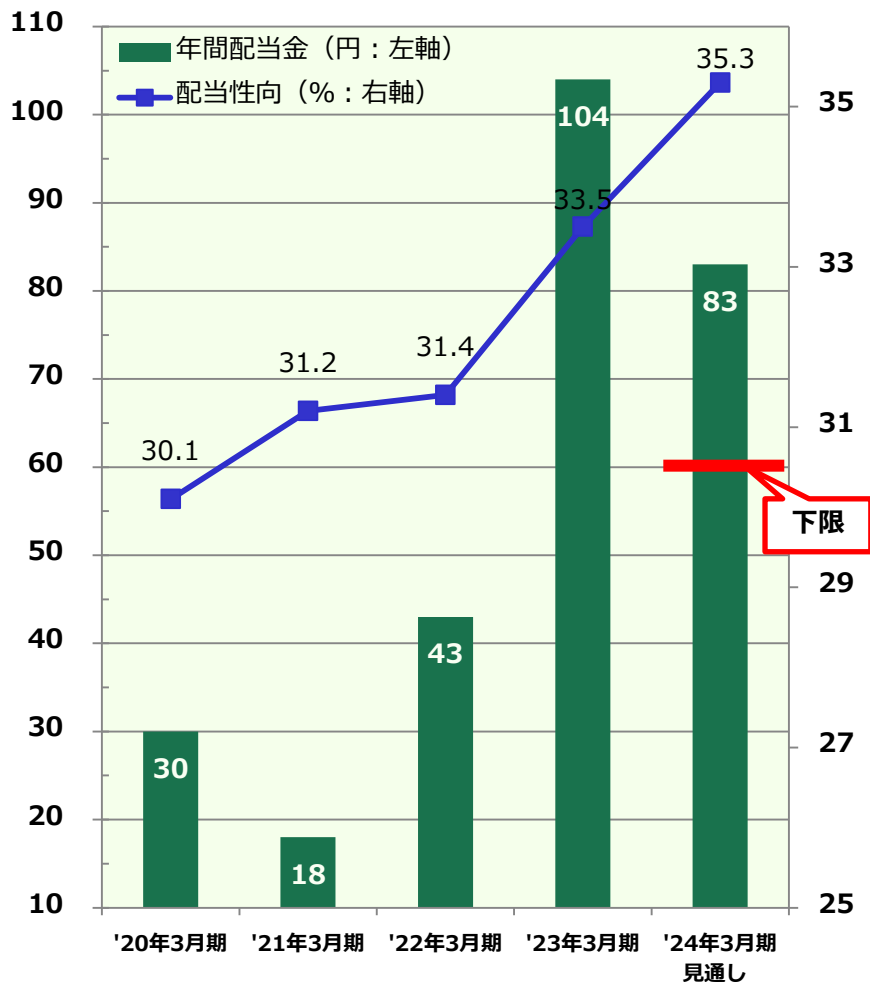
’24年3月期

精整工場耐震工事 工場老朽更新：保全	1,000百万円
鑄片研削設備の更新 検査装置老朽更新：生産性向上	450百万円
事務所棟耐震工事 事務所老朽更新：保全	350百万円
製品厚幅計の導入 計測器導入：品質向上	250百万円
製品平坦時計の導入 計測器導入：品質向上	200百万円
B.O.予知装置の更新 検査装置老朽更新：品質向上	173百万円
圧延機フィードローラセパレータ取替工事 生産設備老朽更新：品質向上	160百万円

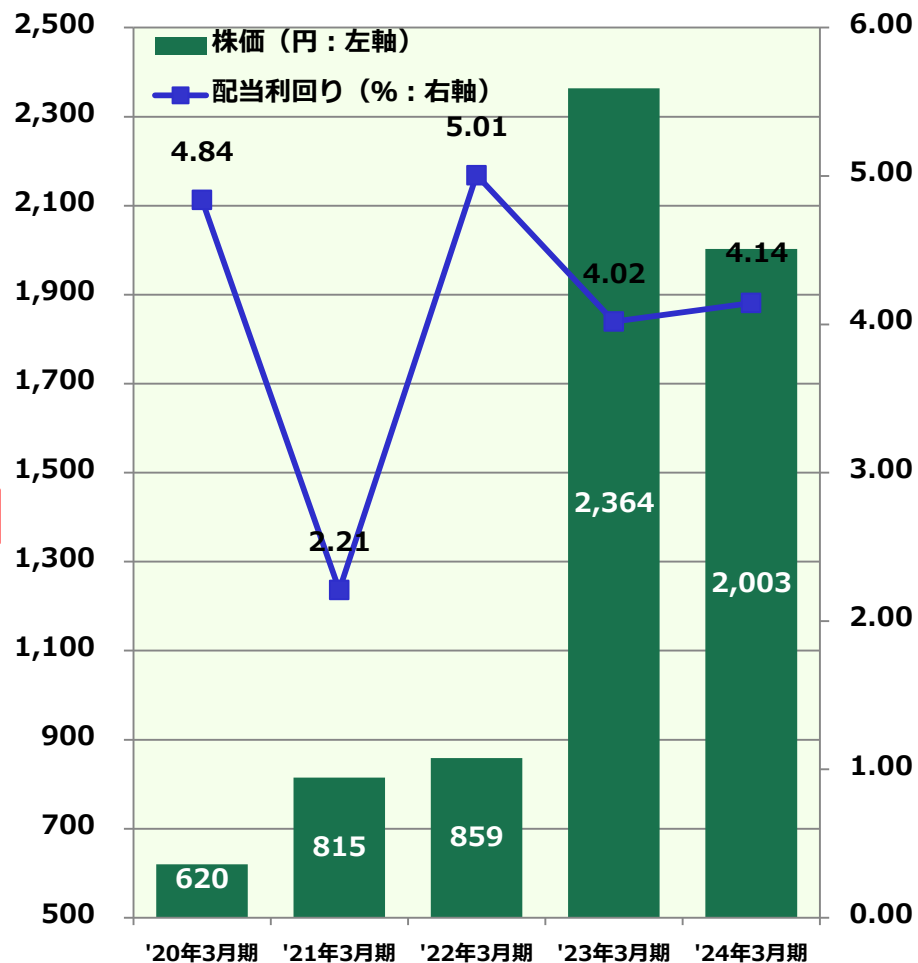
大型投資総額：2,973百万円

24年3月期 配当予想

配当と配当性向



株価と配当利回り



※株価は3月末基準

'23年4月26日基準

※24年3月期より配当方針見直し

資本コストや株価を意識した経営

■ 昨年度の機関投資家等向け決算説明会開催の状況

実施日	'22/6/28	'22/11/2	'23/2/1
開催方法	オンライン	⇒	⇒
説明者	常務取締役	常務取締役	代表取締役社長
時期		決算日翌営業日	⇒
その他		決算補足資料 作成（1Qより）	⇒

■ 新鮮な情報を提供する趣旨から、昨年度上期決算より決算日の翌営業日に開催

■ 東証プライム上場を受け、3Q決算時の説明会を初めて開催。また代表取締役社長が初めて登壇。今後年4回体制を維持し、質疑等を通じ参加者とのコミュニケーションを深める

■ 説明会以外では、経営企画部が中心となり株主様、機関投資家等に対する情報提供や1：1ミーティング等を実施し、積極的な対話を継続

株主様等から弊社宛の主な要望と対応

ご要望

①名証単独なので流動性が乏しい。
万一の際EXITが難しい。

株主様等の概要

・国内/アクティブ/小型株
・バイサイドアナリスト



2022/12に東証プライムに上場。
市場流動性は大幅に増加

②電炉メーカーは業績がスクラップ価格に左右され、ボラティリティが大きいいため、せめて配当は安定して出していきたい。

・国内/アクティブ/小型株
・バイサイドアナリスト



配当性向の引き上げに加え、下限を設定した安定配当を実施

③決算説明会の開催が決算発表日から1ヶ月以上遅れている。速やかな情報提供を期待する。

・セルサイドアナリスト



決算説明会を年2回⇒4回。
説明会は決算説明会の翌営業日に開催

- 収益性と資本コストの指標は種々あるが、以下の数値を採用
両者の差は「エクイティスプレッド」と言われ、極大化を目指す

※指標等については自社の状況を勘案し独自に選択

- $\text{エクイティスプレッド} = \text{自己資本利益率①} - \text{株主資本コスト②}$

① 自己資本利益率

$$\text{ROE} = \text{税引後利益} / \text{自己資本}$$

② 資本コスト

$$\text{株主資本コスト} = \beta \times (R_m - R_f) + R_f$$

(※当社株式に投資する際の市場リスク、信用リスク等)

β : 株式市場に対する当社株価の変動の大きさ

R_f : リスクフリーレート (国債利回り等から算出)

R_m : 株式市場期待値 (TOPIX等)

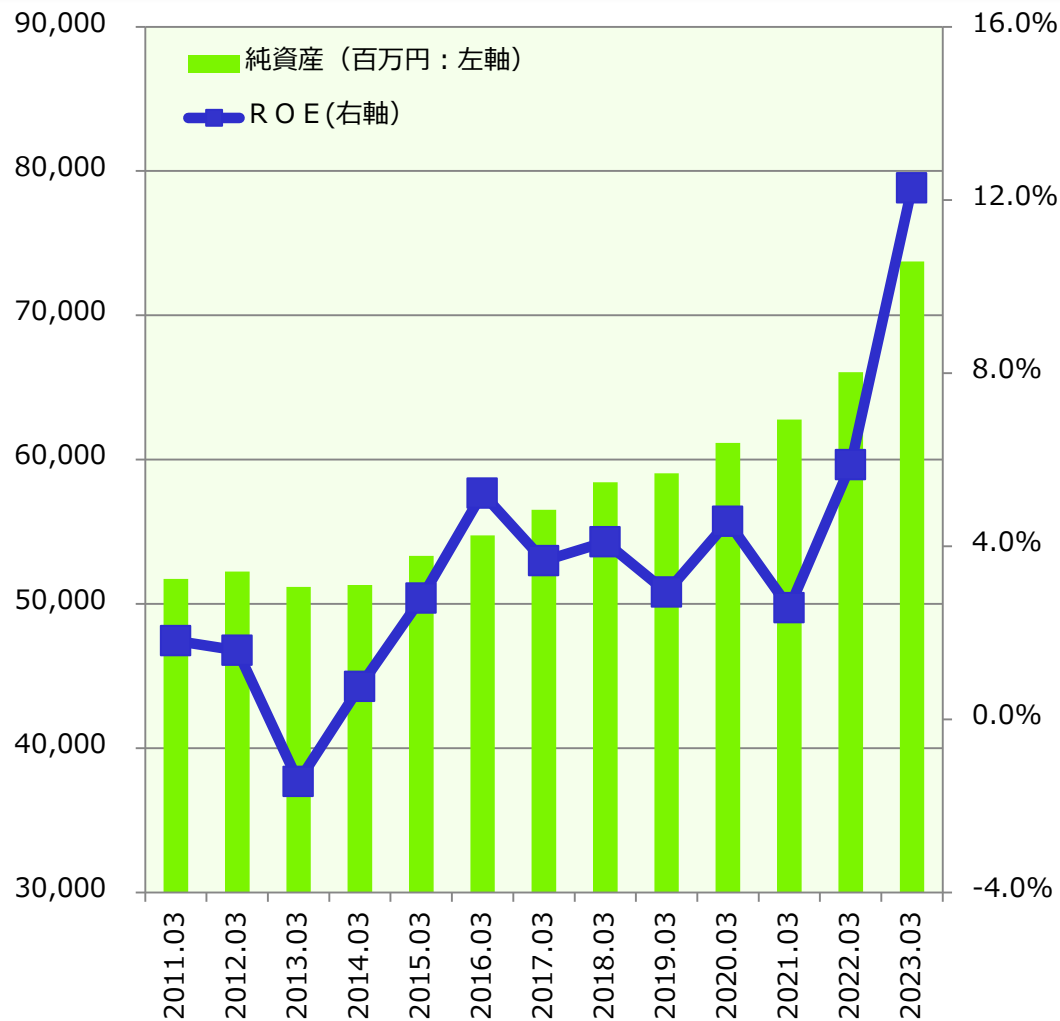
- 投資家からの投資意慾を喚起するためにはエクイティスプレッドの拡大が必要

➢ ①収益性の引き上げと共に②資本コストの引き下げ (β のコントロール) が必要

ROEの推移

・'23/3期は好調な業績に支えられ、ROEは12%台を確保

➤一方、純資産が積み上がり、ROE 8%を確保するためには每期安定的に利益を積み上げる必要有

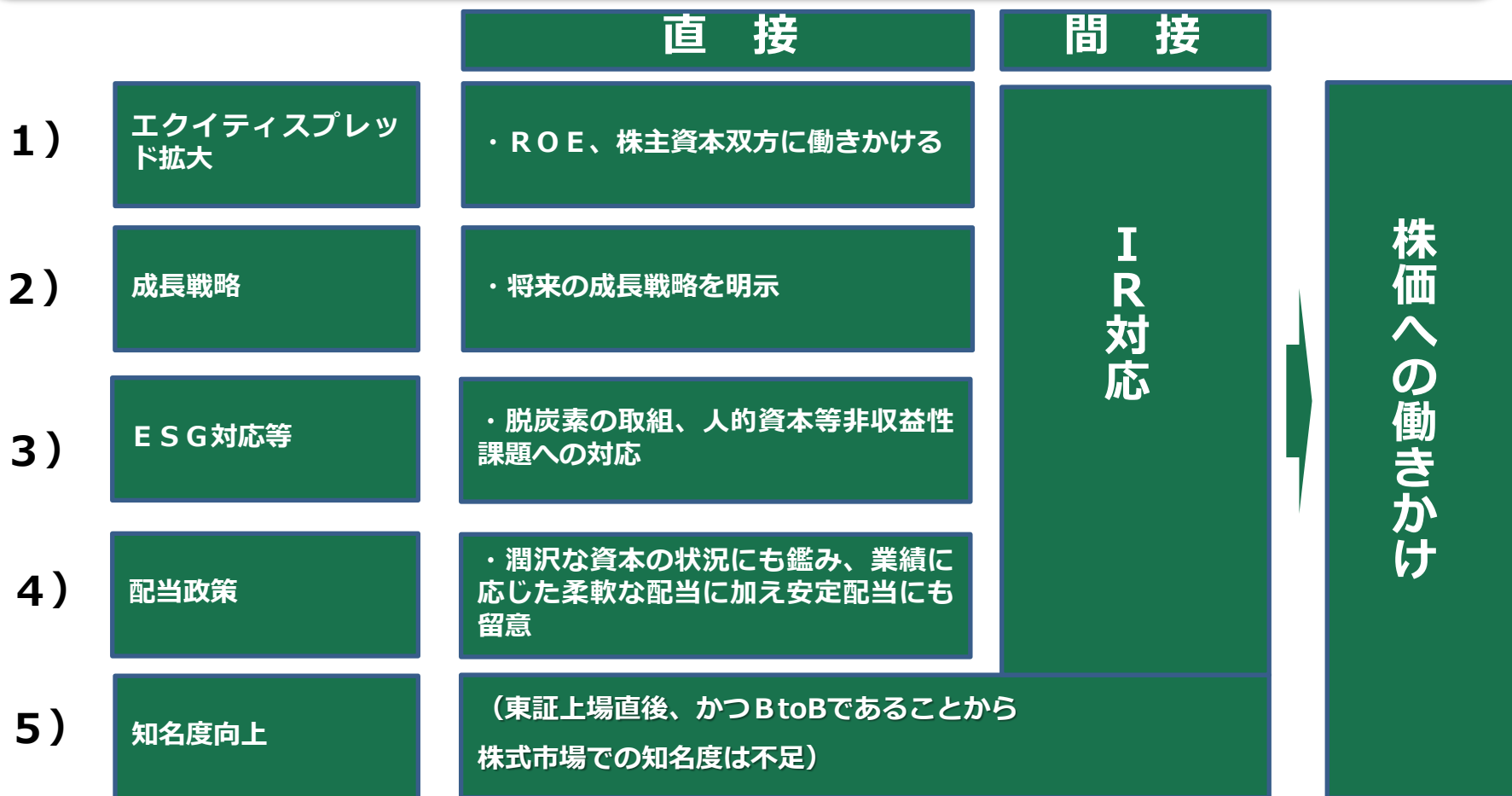


- 当社は2022/12/28に東京証券取引所**プライム市場**へ上場
名古屋証券取引所（プレミア市場）との重複上場
 - 株価は大幅に上昇、出来高も増加
- P B Rは大幅に上昇（'22/3末0.36倍⇒'23/3末0.95倍）
も1倍にはわずかに届かず



目標とアクションプラン

- 数値については、東証の指針も踏まえ設定
- ◆ ROE⇒8%を安定的に上回るようにする
- ◆ PBR⇒1倍超を目指す
- 具体的なアクションプランは以下の通り

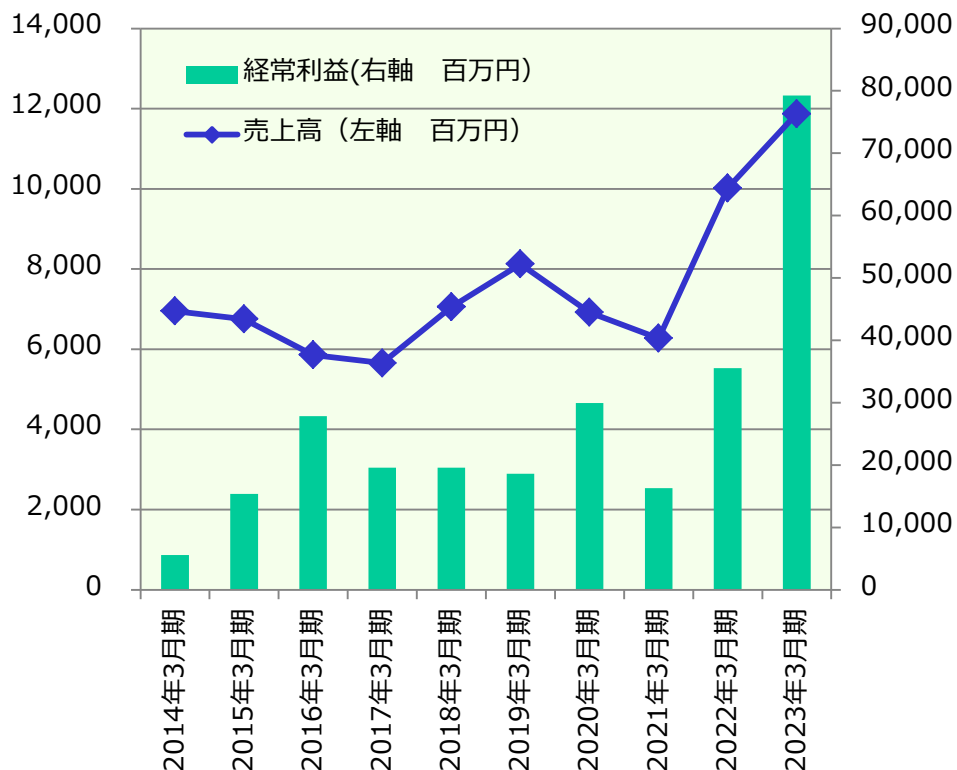
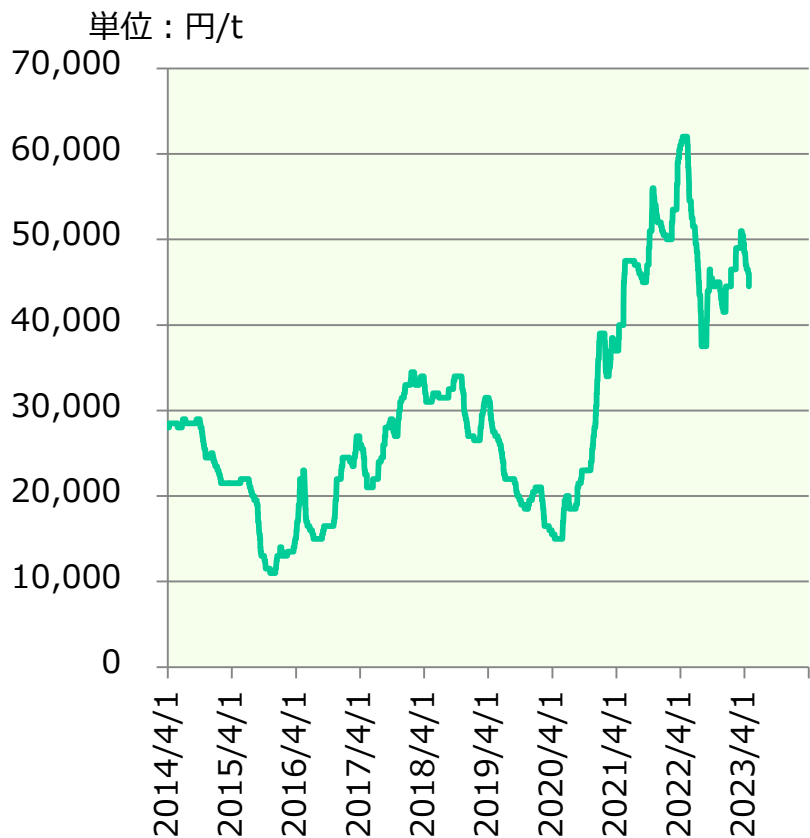


1) エクイティスプレッドの確保、拡大

項目	ターゲット	手法	具体的施策
①収益性	利益の極大化	適切な販売価格の確保 販売量の積み増し コストカット	➢ 2024年3月期通期見通 ご参照
	自己資本の コントロール	一定程度の自己資本は必要 だが、資本効率にも注目。 配当政策も重要	➢ 配当政策の見直し
②株主資本コスト	βの引き下げ	前倒しかつ肌理細かな情報 開示 (サプライズを防止)	➢ 適時適切な開示を継続 会社説明会の年4回化 (‘23/2より)、説明会を 決算発表日の翌営業日に設 定(‘22/11より)
		スクラップの価格変動によ る業績のブレを抑える	➢ スクラップヤードの拡張 ➢ 備蓄材の効果的活用

スクラップ価格と長期業績推移

- ・ 過去10期においては、スクラップ価格の変動の影響はあるものの、毎期経常利益を確保
 - 特に2023/3期は好調な仕上がり



* 弊社購入H 2 建値

スクラップヤード拡張（2024～2026中期）

目的：主原料受入能力向上。貯蔵量増



写真 スクラップヤード

屋外ヤード拡張及び建屋化

貯蔵量：1万t



貯蔵量：3万t

在庫の状況

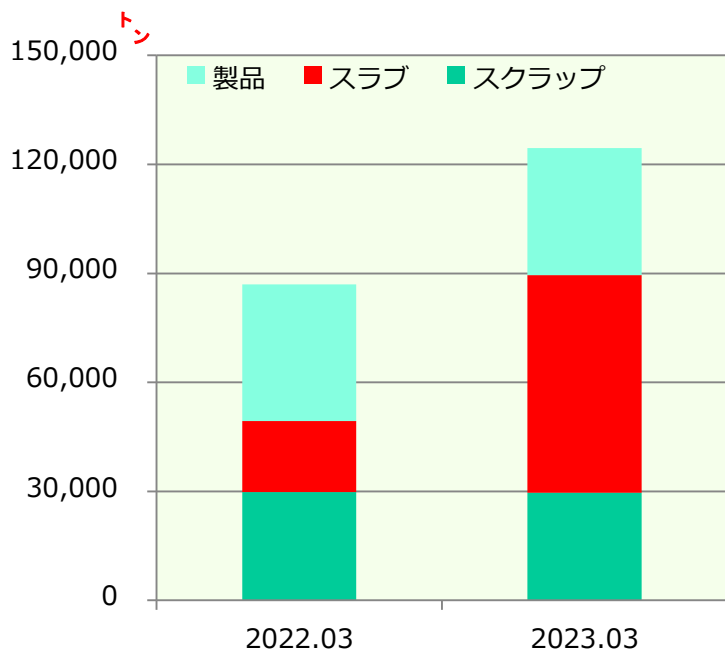


図. 在庫量



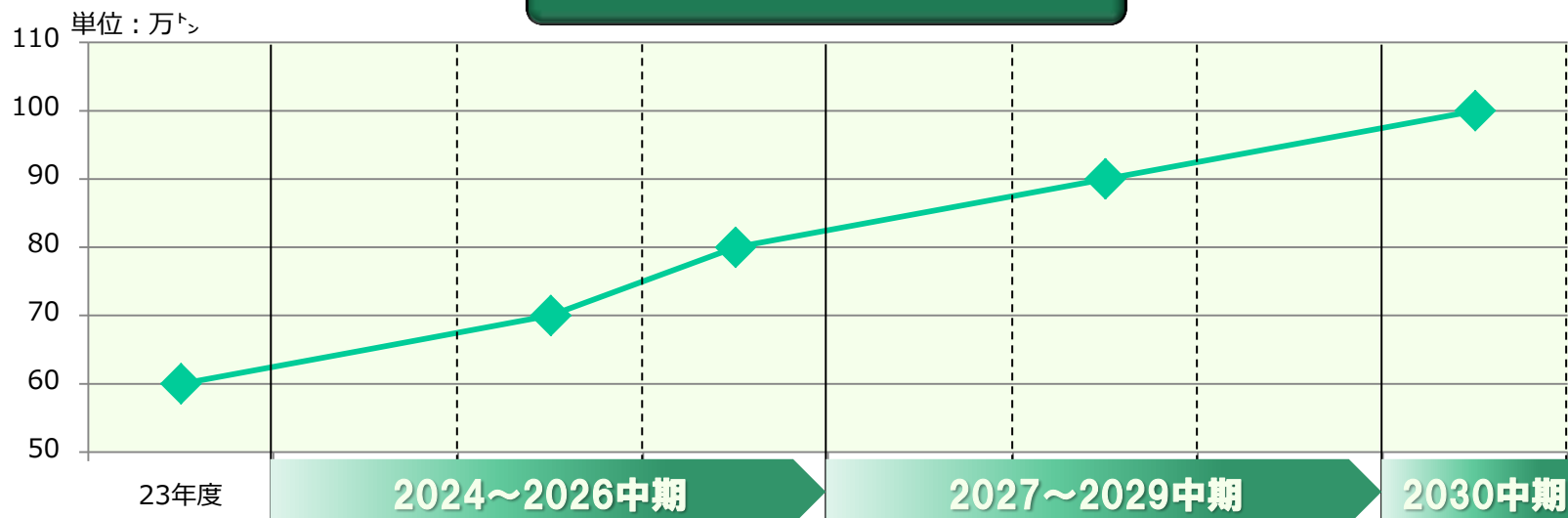
長期休止工事対応により、スラブの備蓄を増加

➤ 販売価格を適切にコントロールしメタルスプレッドを確保することが第一だが、在庫量を増やすことにより、運転資金は必要だが、スクラップの価格変動に対し収益を安定化させる効果

* 在庫評価は移動平均法を採用

2) 成長戦略

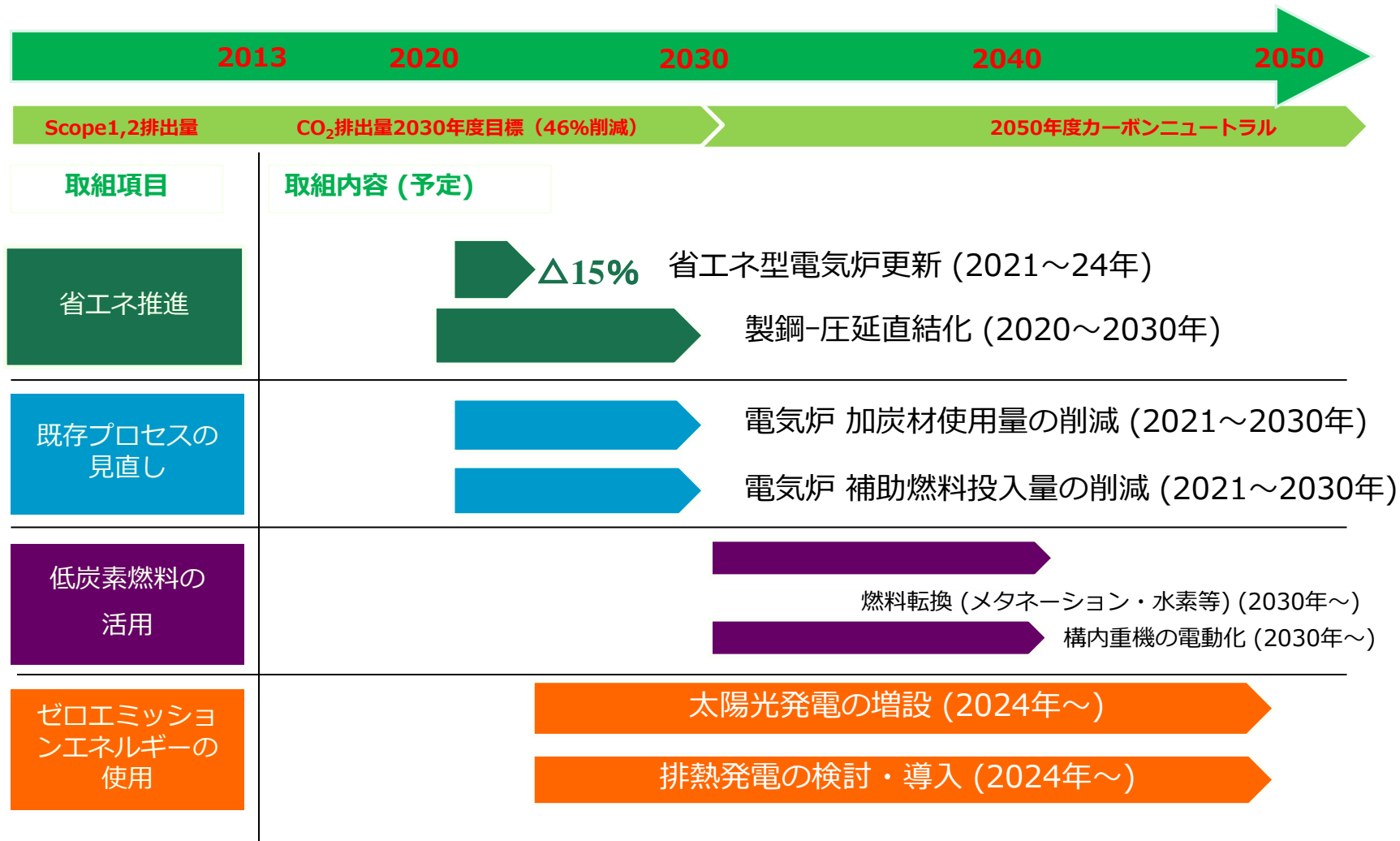
目標厚板販売量



生産能力・生産性	スクラップヤード拡張	屋外ヤード 1万t⇒2万t	屋外ヤード 3万t +屋内ヤード化
	製鋼能力向上	取鍋4基化	
		CCスラグ冷却装置増強&設備増設	
	圧延能力向上	圧延の稼働率アップ	
		下工程のピッチアップ	
	人員	製鋼4直化	圧延4直化
	製鋼圧延直結化	加熱炉装入温度 760℃	1,000℃

3) ESG対応等

CO₂排出量削減に向けたロードマップ



人的資本に係る足許の取組み

「人を基本とする経営を実践する」との経営理念のもと、人材育成などの人的資本への投資を積極的に行い、企業価値のさらなる向上に努める

■ 従業員エンゲージメントの向上

・従業員持株会向けインセンティブ制度の導入

従業員のさらなる経営参画への意識高揚を図るとともに、当社の中長期的な株主価値に対するモチベーション向上を企図し、本制度を導入(2023年2月)。

従業員に対し、株式を譲渡。

・特別賞与の支給

2023年3月期の業績向上に向けた従業員の努力に報いること、昨年から続く物価上昇に対し従業員が安心して働けるよう生活を応援することを目的に、月額給与の1か月分相当額の特別賞与を支給(2023年3月)

・健康経営の推進



2023年4月から構内を完全禁煙にするなど受動喫煙防止対策に段階的に取り組んできたことなどが認められ、2022年度に続き、2023年度も健康経営優良法人に認定された

■ 人材育成

人格の陶冶、技術・技能の向上等社員としての人間形成を助長するところを目的として入社時及びその後適宜、教育訓練を実施

公的資格取得や通信教育に対し補助金を支給するなど社員のスキルアップを援助

5) 配当政策 2024/3期の配当の考え方

■ 従前の配当の考え方

利益配分については従来より「①安定的な配当に意を払いつつ、
②業績に見合った弾力的な配当を実施していく」事を基本方針

■ 中期経営計画での配当の考え方

配当性向30%を最終目標値

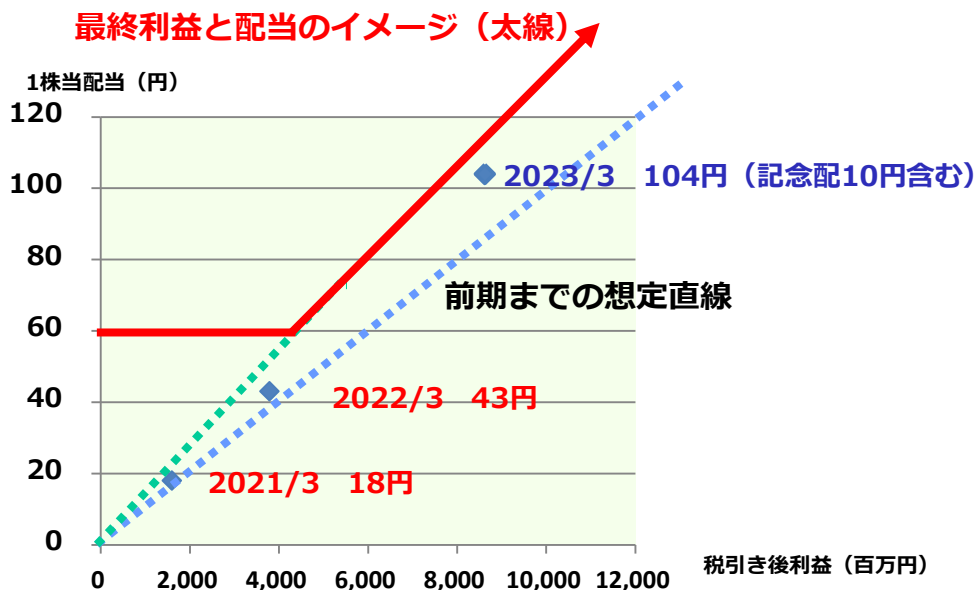
■ 従前の配当の考え方を具体化。以下のいずれか大きい方を目途とし、
株主還元を一層強化

■ 安定的な配当

⇒① 60円/株

■ 業績に見合った弾力的な配当

⇒② 配当性向35% (中期経営計画比+5%)



ご清聴
ありがとうございました

あつい心で未来を創ります



中部鋼板株式会社

